

バディキッズ・アドベンチャー・チャレンジ・プログラムにおける自己成長
—修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチによる自己成長のプロセスモデルの探索—

遠藤大哉¹⁾, 青柳健隆^{1, 2)}, 岡浩一朗³⁾

¹⁾ 早稲田大学スポーツ科学研究センター

²⁾ 関東学院大学経済学部

³⁾ 早稲田大学スポーツ科学学術院

キーワード: 野外教育, 質的研究, 達成感, フロー経験, 自尊感情

【抄録】

子ども達の自然体験活動不足が深刻な問題となっており, 今日, 多くの学校や社会教育団体, 民間団体・組織によって様々な自然体験事業が展開されているが, 実施期間の短さ, 一貫したプログラム作りの欠如, プログラム開発の不足, 指導者の不足等の問題点が指摘されている。

遠藤ら(2015)は, その課題解決に向けて「長期継続型」で「幅広い」, 「本物の自然」の中で行う活動を基に「バディキッズ・アドベンチャー・チャレンジ・プログラム」を開発・実践し, そのプログラムが子どもの成長にとって有益である可能性を提示し, プログラムにおける自己成長仮説モデルを試案したが, プログラムの提供者による主観的な仮説モデルにとどまるため, より科学的で客観的な視点による検討が課題として残されていた。

本研究では, バディキッズアドベンチャー・チャレンジ・プログラムに参加した子どもの視点から, 質的研究手法を用いて, 自己成長に影響する要因要素の関係性と自己成長に至るまでのプロセスを明らかにすることを目的とした。

平成 26 年度バディキッズ・アドベンチャー・チャレンジ・プログラムに参加登録した 12 名の参加者に対してインタビュー調査を実施した。インタビュー内容をすべて逐語化し, コード化したものから分析メモを作成してデータをカテゴリに分類・整理し, カテゴリ同士の関係を検討した。その結果, 42 のタイトルと 13 のカテゴリが生成された。実際にプログラムに参加した子ども達がどのように変容したかに注目し, 自己成長モデルの改良を試みた結果, 【達成感】(経過中の達成感)を得る経過中に, 【逆境】の中で困難を乗り越える根源的な喜び(【フロー】)を自分で発見する能力などが開発されていくことが確認され, 【逆境の克服要因】に取り組むその時に【フロー】や【熟達】動機によって【モチベーション】が高められるという自己成長の内容とプロセスが明らかになった。さらにその【モチベーション】は, 【自尊感情】によって高められる可能性が示唆され, 自己成長仮説モデルの中に【自尊感情】を支える柱が存在することが確認された。また自己成長仮説モデルに示されている心の安全を保障する雰囲気は【仲間の存在】, 【帰属意識の高さ】, 【スタッフの存在】によってつくり, 自分達の居場所を自分達で大切にしていることが確認された。さらに本研究によって【逆境の克服要因】, 【仲間の存在】, 【スタッフの存在】, 【帰属意識の高さ】, 【自己成長の実感】を自己成長の影響要素とする自己成長モデルが作成された。

スポーツ科学研究, 13, 28-40, 2016 年, 受付日: 2015 年 12 月 19 日, 受理日: 2016 年 5 月 25 日

連絡先: 遠藤大哉 359-1192 所沢市三ヶ嶋 2-579-15 早稲田大学スポーツ科学研究センター

h.endo@kurenai.waseda.jp